

国際基督教大学図書館のライティングサポートデスク —大学院生から学部生への 支援をめぐる



2013年10月28日 14:30-16:30

2013年度第3回千葉大学アカデミック・リンク・セミナー

「学修支援における学生との協働」

国際基督教大学図書館、ライティングサポートデスク

(筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程)

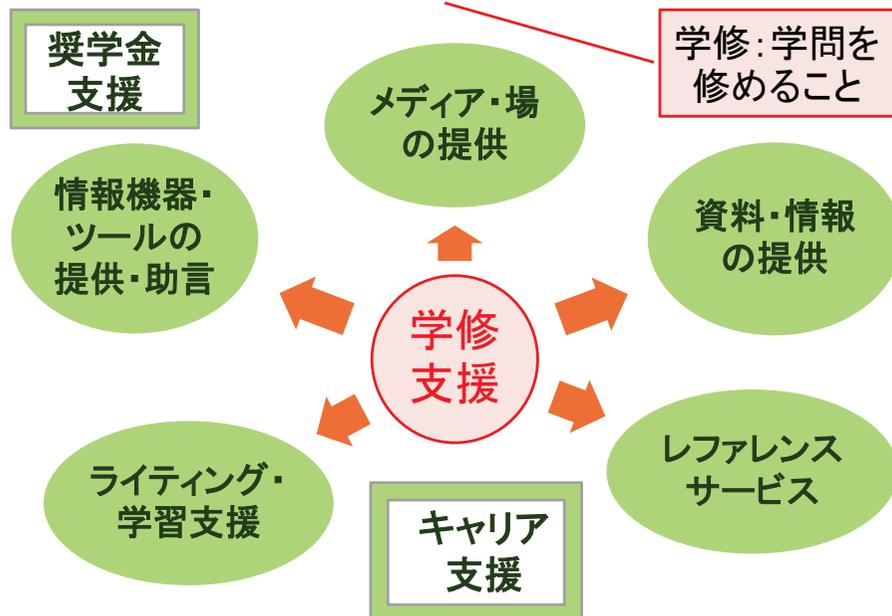
利根川樹美子

ライティングサポートデスク(WSD): 大学院生から学部生への支援をめぐる

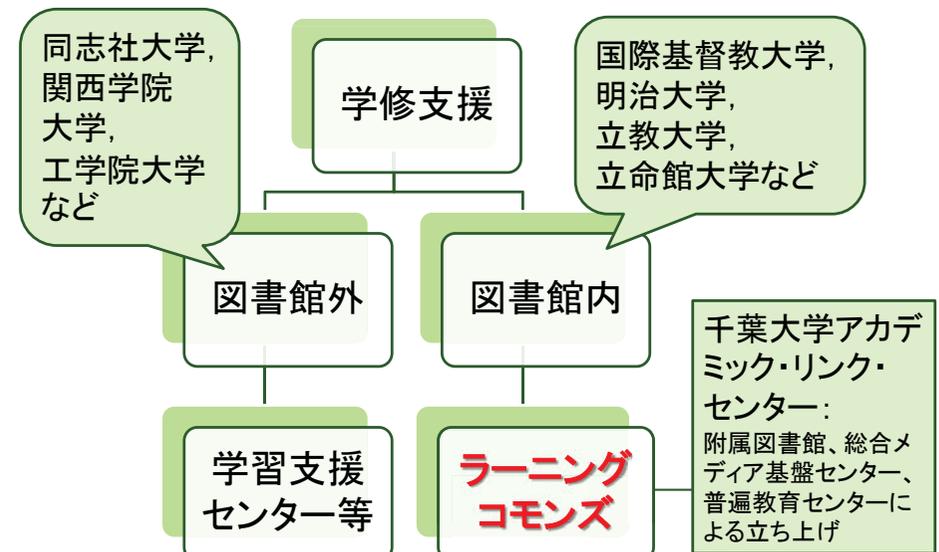
お話しする事項

- 大学の学修支援はなぜ必要か?
- なぜ学修支援を図書館で?
- ラーニングコモンズの中のライティング支援
- 国際基督教大学の概要
- 国際基督教大学図書館のWSD
- WSD: 課題と対策
- 今後の課題
- 参考文献

大学の学修支援はなぜ必要か?



なぜ学修支援を図書館で? ラーニングコモンズということー



大学図書館でのラーニングコモンズの文脈をたどると...

1990年代頃から北米の大学図書館で始まる背景には、インターネットの普及、情報通信技術の発展があった

インフォメーション・コモンズ

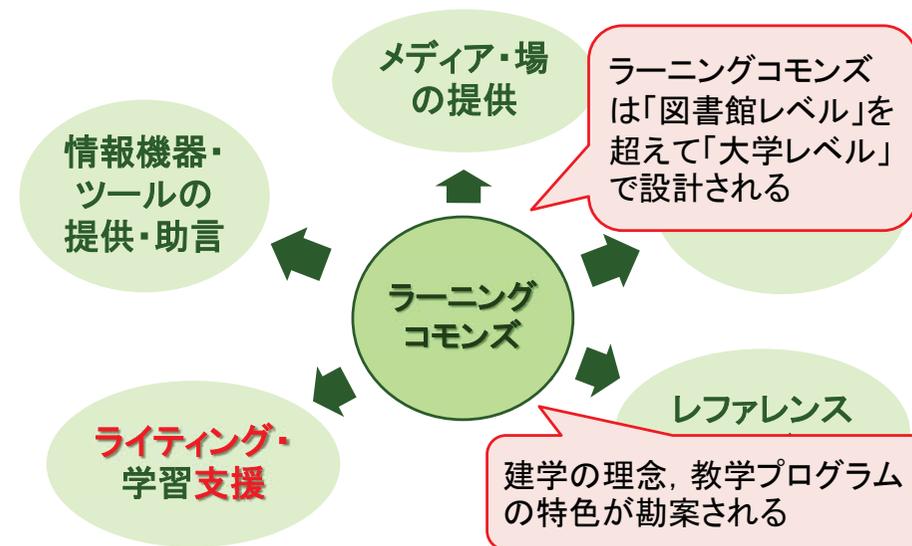
ラーニングコモンズとは：ワンストップで、多様な学習支援・総合的な学習環境を提供するサービス

ラーニング・コモンズ

呑海沙織、溝上智恵子「大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」『図書館界』63(2), 2011.7, p. 176-177.

5

ラーニングコモンズの中のライティング支援



呑海沙織、溝上智恵子「大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」『図書館界』63(2), 2011.7, p. 177-178.

6

国際基督教大学の概要

2012年度

- 教養学部アーツサイエンス学科(32メジャー)
大学院アーツ・サイエンス研究科
博士前期課程(4専攻)
博士後期課程(1専攻)
- 学生数 教養学部 2,779
大学院 158
計 2,937
- 職員数 教職員 156
一般職員等 123
計 279
総計 3,216

7

国際基督教大学(ICU)という大学：ライティング支援の条件

- リベラル・アーツの大学
 - ★ 4年間でのリベラルアーツ教育
- 教学プログラムの特徴
 - ★ 1,2年次のELA(English for Liberal Arts)プログラム、アカデミックなスキルの基礎を形成する集中英語教育
2年次には英語論文を作成
 - ★ 教員の授業・指導形態
リザーブブック、グループ学習、プレゼンテーション、アドバイザー・アドバイザー制度
- ELAプログラムと連携した図書館員による資料収集法・データベース検索法レクチャーの実施
 - ★ 実習例：ProQuest, JSTOR, LexisNexis, OECD iLibrary, EBSCOhost, RefWorks, Grammarly, リンクリゾルバ, ウェブ・スケール・ディスカバリ・サービスなど

8

国際基督教大学図書館のWSD

位置: 2005年国際基督教大学教学改革委員会によってライティングセンターの設置が全学的優先課題に位置付けられる

設立: 2010年12月、ライティングセンター設立を目的とするパイロットケースとして運営開始(2013年4月から本格稼働)

組織: 教養学部長室と図書館の共同で運営

目的: 学生のニーズ、運営上の問題点等に対応し、全学的ライティングセンター機能を実現する

場所: **オスマー図書館(ラーニングcommons)内**

人員: 図書館レファレンスサービスセンターの専任職員3名、派遣職員1名で兼務、2012年12月から嘱託1名増員

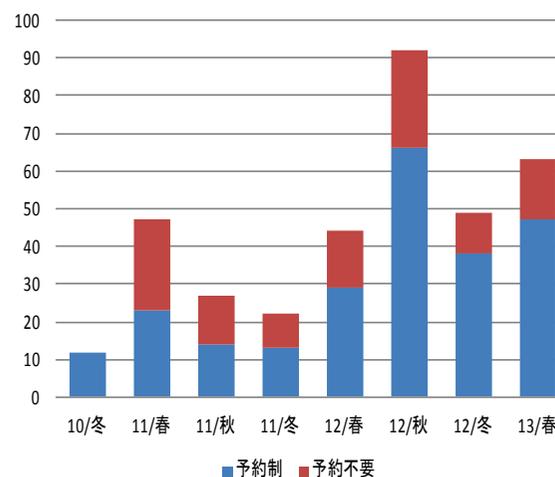
リニューアル: 2013年4月から、オスマー図書館地階に移転、機能を拡充

学内外の専門講師によるチューター向けワークショップでの指導を受ける

9

WSDセッション数 —ライティング支援サービス—

WSDセッション数(2010冬学期~2013春学期)



2012年秋学期は、前年秋学期の3.4倍の利用者数だった
2011年度延べ利用者数96人、2012年度は185人、1.9倍に増加した
学部学生数2,800人、セッション利用者の延べ総数356名
これは全学部生数の約12.7%に相当する

10

WSDチューター採用者数

2010年度冬学期~2012年度冬学期 (人)

大学院課程	2010年度	2011年度			2012年度		
	冬学期	春学期	秋学期	冬学期	春学期	秋学期	冬学期
修士	4	6	11	11	9	9	10
博士	6	4	4	4	6	3	5
計	10	10	15	15	15	12	15

大学院在学学生 約160人, 学期あたり
チューター人数 **13名**
チューター率 **約8.1%**

11

WSDの活動:ライティング支援のターゲット

主な対象

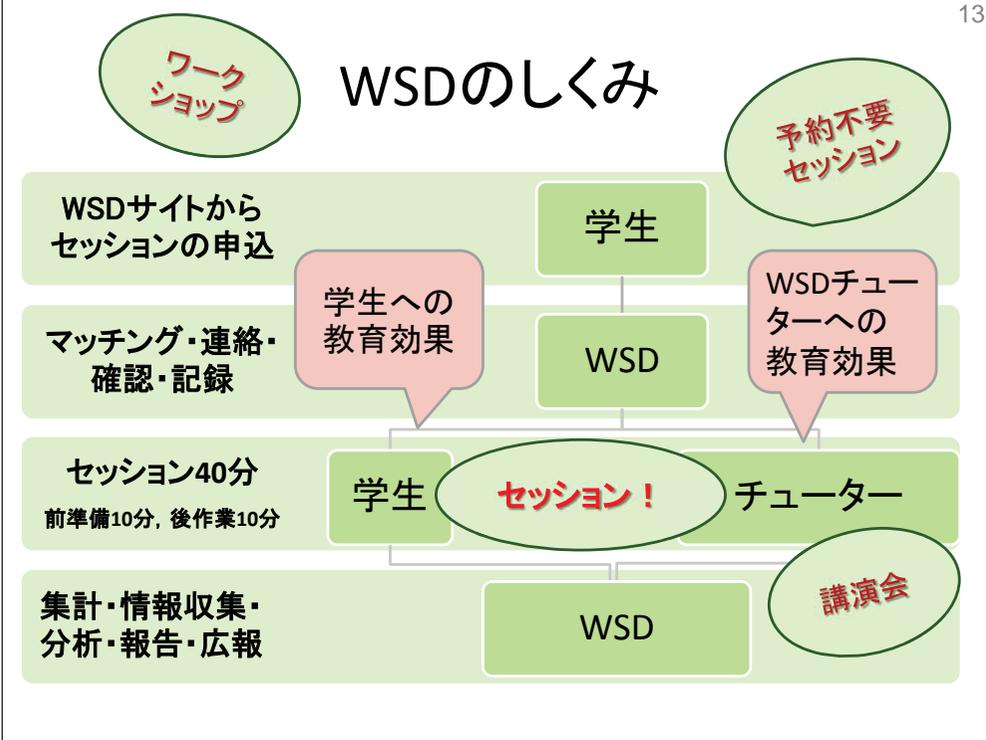
日本人学部生
日本語レポート・卒論

日本人学部生
英語レポート・卒論

ノン・ジャパニーズ学部
生の英語・日本語レポート・卒論(少数)

大学院生のレポート・論文(要望があれば対応)

12



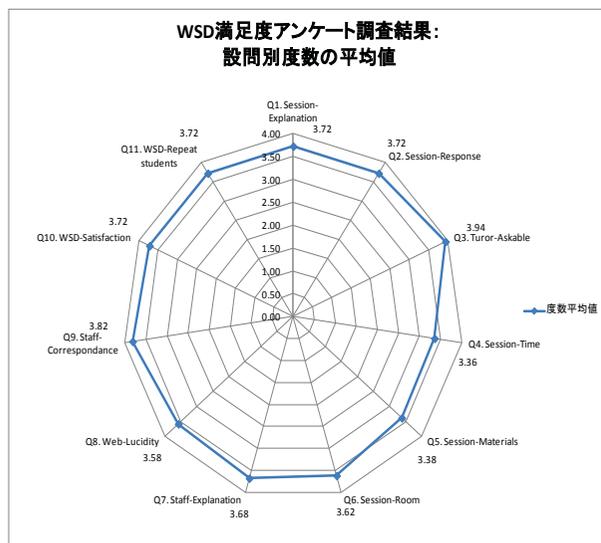
持ちこまれた文章の執筆段階

2010年度冬学期～2012年度冬学期

文章の種類	段階	2010年度冬学期・2011年度春学期			2011年度			2012年度			合計	構成比
		秋学期	冬学期	春学期	秋学期	冬学期	春学期	秋学期	冬学期			
レポート	構想段階	8	2	1	14	20	2	47	24.1%			
	アウトライン	0	2	0	2	3	1	8	4.1%			
	ラフドラフト	2	1	3	1	10	5	22	11.3%			
	最終稿	3	1	0	3	3	3	13	6.7%			
卒論	構想段階	8	2	1	3	6	1	21	10.8%			
	アウトライン	3	2	1	0	3	2	11	5.6%			
	ラフドラフト	1	1	5	2	12	6	27	13.8%			
	最終稿	8	0	2	0	0	11	21	10.8%			
その他・不明		2	3	0	4	9	7	25	12.8%			
計		35	14	13	29	66	38	195	100.0%			

14

ライティング支援を受けた学部生の満足度 2011年度



アンケート質問項目

- Q1. チューターは分かりやすく説明しましたか
Q2. チューターは質問に対して明確に答えましたか
Q3. チューターとは話しやすかったですか
Q4. セッションの時間は十分でしたか
Q5. 資料は役に立ちましたか
Q6. 部屋は学習に適していましたか
Q7. 職員は分かりやすくライティングサポートデスクについて案内・説明をしましたか
Q8. Webページは分かりやすくライティングサポートデスクについて案内・説明をしていますか
Q9. 予約手続きにおいて、職員は必要な対応を行っていましたか
Q10. ライティングサポートデスクに満足しましたか
Q11. 今後も利用したいと思いますか

回答の選択肢

- 4: 非常にそう思う
3: そう思う
2: そう思わない
1: 非常に思わない

15

WSD: 課題と対策

- WSDの認知度の上昇
対策 あらゆる機会の広報活動, 予約不要キャンペーン
- 教員からの推薦の獲得、WSDの趣旨の理解, 協力の確保
対策 行政職による説明, 教員向け解説・チラシ作成, 利用状況・満足度調査の報告, 専門の外部講師による講演会開催
- セッションの目的・チューターの技術の明確化、学生・教員の信頼・満足度のアップ
対策 ホームページのリニューアル, 学内外の専門講師によるチューターのスキルアップのためのワークショップ開催, チューターの教育体制の整備(今後の課題)

16

WSD: 今後の課題

- 学内外のライティング専門講師との連携を深める。
- チューターの教育体制を整備する
- 教員の理解と協力をさらに獲得する
- セッションの効果を客観的に評価する
- FD、就職相談室、カウンセリングセンター、特別学習支援室、アカデミック・プランニング・センター等との連携を促進し、学生・教員のニーズに応える
- 全学的、総合的な機能としてのライティング・センター機能を実現・充実させる。

17

参考文献 (1)

- 呑海沙織、溝上智恵子「大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」『図書館界』63(2), 2011.7, p. 176-184.
- 館岡洋子「ピア・ラーニング Peer Learning」『日本語教育通信』
<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/reserch/033.html> (参照 2013/10/24)
- 今中舞衣子「ピアライティングの教室への導入」『Rencontres Pedagogiques du Kansay』(23), 2009, p. 41-45.
http://www.rpkansai.com/bulletins/pdf/023/041_045_imanaka.pdf (参照 2013/10/24)

18

参考文献 (2)

- 小原守雄、荒木晴美「高機能広汎性発達障害がある学生に対する支援: 学生相談における協働支援の経過」『崇城大学 研究報告』34(1), 2009.3, p. 41-49.
- 佐渡島紗織、太田裕子編『文章チュータリングの理念と実践: 早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房, 2013, 8, 277p.
- Schon, Donald A. 『省察的実践とは何か: プロフェッショナルの行為と思考』[*The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action*]柳沢昌一, 三輪建二訳, 鳳書房, 2007, 11, 440p.

19

ご清聴ありがとうございました



20